

事業計画書

	事業名	困らないコミュニケーション～人間関係講座
団 体	名称	特定非営利活動法人 育々会
	住所	倉敷市笹沖 457-16
	遂行責任者	松川 俱子

1 団体の目的

*定款、規約、会則等に定めている目的を、そのまま転記してください。

この法人は、普通に暮らせるまちづくりの一環として年齢・性別・所属などを問わない居場所と学び場に関する事業を行い、地域住民が学び、助け合いながら高い美的情操と豊かな人間性を養うことを目的とする。

2 事業の分野

*次のいずれか該当する分野に☑をしてください（複数選択可）。

保健、医療又は福祉の増進 社会教育の推進 まちづくりの推進
観光の振興 農山漁村又は中山間地域の振興 学術、文化、芸術又はスポーツの振興
環境の保全 災害救援 地域安全 人権の擁護又は平和の推進 国際協力
男女共同参画社会の形成の促進 子どもの健全育成 情報化社会の発展
科学技術及び学術の推進 経済活動の活性化 職業能力の開発及び雇用機会の創出
消費者保護 団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助

3 現状と課題

(1) 地域の状況や市民ニーズ

ひきこもりの高齢化や長期化が全国的な課題となる中、引きこもり問題は不登校やいじめ、発達障がいなどの問題との関連が高いことが、内閣府のひきこもり新ガイドラインからもみえる。実際に受ける問い合わせや相談も、いじめが原因で不登校になった、発達障がいの影響もあり人間関係がスムーズにいかずひきこもりになったなどの内容が多い。よってひきこもり予防が課題である。

(2) 本事業で取り組む地域課題

不登校、ひきこもりの本質である発達障がいや精神的な未熟さが引き起こすコミュニケーション不足という課題にアプローチする。

4 目的と概要

(1) 事業の目的

コミュニケーションのとり方を学び、興味のあることを通して人と交流することによって人間関係でのトラブルを減少させ、社会参加したり、社会で活躍できる大人づくりをする。

(2) 事業の概要

ひきこもりやその予備軍に対し「若者」という概念でなく、どの年代にも起こりうるものとしてとらえる事業である。またひきこもりになる要素である人間関係の基本の「コミュニケーション」にアプローチすることによって当事者意識を持たせ参加してもらうために以下の三本柱で行っていく。

- 1、講演会&座談会
- 2、コミュニケーション講習
- 3、少人数交流の場ワンコイン講座

5 受益者と効果

(1) 事業の受益者

引きこもり傾向にある人とその家族で年齢層は10代から40代。またその周囲の関心のある人で40代から70代

(2) 事業の実施に期待する効果

- 1、引きこもり傾向があるひとがひととの交流の中で、人と目を合わせることが可能になること。
- 2、この事業を通し自身の居場所（よりどころ）ができる。
- 3、ひとりでも多くの市民が当事者意識を持つ。

6 団体の能力

(1) 団体が持つ能力

「月1運営しているカフェ」「生涯学習サロンとしての機能」「コミュニケーション個別教室」があり、角度をかえたフォロー体制がある。

(2) 能力の活用

*課題解決に向けて、団体の能力がどのように役立ちますか。

この事業の受け皿として当法人事業の「憩う場」「学ぶ場」「助け合う」が有効である。

「憩う場」では月1で運営しているカフェがあり、人間関係で疲れた人やなやんでいるひとの居場所となっている。もうひとつ生涯学習サロン少人数制ワンコイン講座がある。どちらも会員がボランティアとして運営しているため、ひきこもりやひきこもり予備軍、その家族などの居場所になりえる。

「学ぶ場」ではコミュニケーション教室があり、本事業によってもっと深く学びたいとおもったひとにレベルアップした内容を案内できる。

「助け合う」では有償ボランティアとして当法人のなかで活躍の場がある。

7 事業内容とスケジュール

(1) 事業の具体的な内容

事業スタート時に講演会を開催。講話者は「ひきこもり経験者」「ひきこもり経験者の家族」とする。その後、6か月にわたり月1回の講習開催を行う。

テーマ①色と絵でみる自分のココロ、②かんたんコミュニケーションマニュアルA. B. C、③一人が良いけれど、時々ひとと交わろうと思う人のティータイム。

講習開催後、各種趣味講座として

対象年齢

*10代～20代前半①しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定、②ゲームアプリでゲームをつくろう、③アニメイラストサークル。

*20代後半～30代後半①しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定。

*40代～50代①しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定。

*対象年齢無し①キャベツでヘルシーお好み焼き～趣味がない・みつきたいひとと限定。

事業の締めとして、専門家を交えた座談会を開催する。

(2) 事業のスケジュール

	全てを平成29年8月～29年3月までの第1, 3火曜日 13:30～ か 第2, 4土曜日 18:30～いずれかの開催とする。
8/26	講演会
9/9 1/9	色と絵でみる自分のココロ
10/14 2/6	かんたんコミュニケーションマニュアルA. B. C
11/11 3/6	一人が良いけれど、時々ひとと交わろうと思う人のティータイム
12/9	座談会
1/13 10/3	はじめてのギター
2/10 11/7	キャベツでヘルシーお好み焼き～趣味がない・みつきたいひとと限定。
2/20 12/5	10～20代前半しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定
3/10 1/16	アニメイラストサークル
9/30 2/20	20代後半～30代後半しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定
10/28 3/20	40代～50代しゃべり場～コミュニケーションが苦手なひとと限定
11/25 10/3	ゲームアプリでゲームをつくろう

8 目標

内容	現状	目標値
受益者が自身を知り、趣味をとおして人と交流する。	対象者となりえるひとの共通点として、自身の能力を知らず、やりたいことがみつからない。	受益者の2割がやりたいことをみつけ、交流を習慣化させようとする。

9 受益者負担 ※団体の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

徴収する (見込み: 1,000円、500円)

徴収しない (理由: _____)

10 事業の見通し

*2年後、3年後といった将来、事業をどのように展開させますか。
 二年後に就労サポート事業へ発展させ行政との協働事業を展開する。

11 他団体との協力

*他団体と協力して事業を実施するときは、その団体名や役割を記入してください。
 社会福祉法人クムレ⇒はじめてのギターゲスト、各世代しゃべり場
 精神科医⇒座談会

12 行政との協働 ※自主事業コースの団体は記入不要です。

*協働する市担当部署の名称、役割、協議をした日及び内容を記入してください。

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
受益者負担		66,000	講習@1000×4人×6回講座@500×5人×14回
会費からの繰入		24,000	
その他		0	
市補助金		277,000	
収入合計		367,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
人件費(会員)※1	講座準備と講師料	23,000	@1,000*23H
交通費(会員)※1		0	
人件費(アルバイト等)	講座スタッフ	24,000	@800*2H*15回
謝金(講師等)	講演・講習・講座	51,000	講演3.5万講習@1000×6講座@1000×10回
旅費交通費(講師等)	講演講師交通費	1,000	片道20キロ*往復*@25円
消耗品費	積算根拠参照	41,000	封筒2500コピ-用紙3500画材12000事務用品8000原材料12000掃除具等3000
印刷製本費	積算根拠参照	94,000	チラシ3種3万テキスト3冊3.9万インク2万コピ-0.5万
通信運搬費	積算根拠参照	74,000	レターパック@510*10/360*20切手@82*700/@10*400
使用料・賃借料		0	
外注費・委託費		0	
対象経費計		308,000	
食糧費		19,000	講座@600*14回講習@1000*10,講師弁当
人件費		40,000	@1000*40
その他		0	
対象外経費計		59,000	
支出合計		367,000	(収入合計と一致)

※1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

※2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。